

アラクロールの事前の情報募集の仕組みにおいて提供のあった情報一覧(ヒトに対する毒性・疫学研究以外)

No.	文献名	ジャーナル名等	公表年	著者名	著者の所属機関	書誌情報	研究分野	原著/総説	海外評価書での引用の有無	ドシエでの引用の有無	<i>in vivo</i> (動物種)/ <i>in vitro</i>	用量 (mg/kg体重又は mg/kg体重/日)	NOAEL／ NOEL	LOAEL／ LOEL	Klimisch コード	評価の目的との適合性に関する情報	備考
1	Recombinant human estrogen, androgen and progesterone receptors for detection of potential endocrine disruptors	Analytical and Bioanalytical Chemistry	2004	Marie-Louise Scippo	Université de Liège	doi: 10.1007/s00216-003-2251-0.	内分泌攪乱作用	原著			rat					企業の報告書の検索期間より古いが、アラクロールにはエストロゲン活性があるという報告。世界において内分泌攪乱作用は、農薬の毒性を評価する際に入れねばならない項目であるため、再評価に必要と考える。	
2	Effects of possible endocrine disrupting chemicals on bacterial component-induced activation of NF-kappaB	Biological and Pharmaceutical Bulletin	2006	Arisa Igarashi et al	National Institute of Health Sciences	doi: 10.1248/bpb.29.2120	内分泌攪乱	原著			in vitro					検索期間よりも古い文献だが、アラクロールがNF-kappaBを介して、マクロファージの機能を阻害する可能性を示した論文	
3	Effects of possible endocrine disruptors on MyD88-independent TLR4 signaling	FEMS IMMUNOLOGY AND MEDICAL MICROBIOLOGY	2008	Takahiro Ohnishi et al	National Institute of Health Sciences	DOI: 10.1111/j.1574-695X.2007.00355.x	内分泌攪乱	原著			in vitro					企業の報告書では評価に適さないと外されているが、アラクロールがマクロファージによるLPS誘導TNF-a産生または一酸化窒素産生を阻害したことを報告している。内分泌攪乱作用、免疫系に影響を及ぼすデータが含まれており、評価に必要な論文と考える。	

アラクロールの事前の情報募集の仕組みにおいて提供のあった情報一覧(ヒトに対する毒性・疫学研究に関するもの)

1. 文献情報

No.	文献名	ジャーナル名等	公表年	著者名	著者の所属機関	書誌情報	原著/総説	海外評価書での引用の有無	ドシエでの引用の有無	備考
1	Semen quality in relation to biomarkers of pesticide exposure	Environmental Health Perspective	2003	Shanna H Swan et al	University of Missouri-Columbia School of Medicine	doi: 10.1289/ehp.6417.	原著			

アラクロールの事前の情報募集の仕組みにおいて提供のあった情報一覧(ヒトに対する毒性・疫学研究に関するもの)

2. 研究結果詳細

		研究デザイン								健康関連の事象の情報								備考(他の文献との関連等)
No.	著者名	国名 (地域名、研究名)	試験設計	調査時期	対象者、年齢	アウトカムの定義	アウトカムの確認 方法	ばく露指標の定義	ばく露の確認方法	試験全体のN数 (症例/対照)	アウトカムのN数 (症例)	分析カテゴリー	ばく露に係るN数 (症例/対照)	相対リスク/オッズ比等	95%信頼区間	p値	交絡因子の考慮	
1	Shanna H Swan et al	USA	症例対照研究	1999 ～2001 年	21～40歳の白人男性 (非喫煙者、不妊、性 感染症、サンプル採取 前3か月の発熱歴のな い者)	精子の質の低下 (精液濃度、形 態、運動精子の割 合、正常精子の割 合)	精液パラメータ (精液濃度、形 態、運動精子の割 合、正常精子の割 合)	尿中のアラクロール 濃度	LC-MS/MS法 結果はクレアチニンに よる濃度補正	ミズーリ州n=25/25 ミネソタ州n=9/27	—	—	ミズーリ州 <0.15(μg/g):3/15 0.15-0.7(μg/g):10/8 >0.7(μg/g):12/2 ミネソタ州 <0.15(μg/g):6/21 ≥0.15(μg/g):3/6	オッズ比 ミズーリ州 <0.15(μg/g):Reference 0.15-0.7(μg/g):6.3 >0.7(μg/g):30.0 ミネソタ州 <0.15(μg/g):Reference >0.15(μg/g):1.8	ミズーリ州 <0.15(μg/g):— 0.15-0.7(μg/g):1.3-29.4 >0.7(μg/g):4.3-210 ミネソタ州 <0.15(μg/g):— ≥0.15(μg/g):0.3-9.2	>0.7(μg/g): <0.0001	他の農薬の曝露	アラクロールの尿中レベルが高いミズーリ州 の男性は、レベルが低い男性よりも精子減 少になる可能性が有意に高かった[アラクロール のオッズ比(OR)= 30.0 (>0.7(μg/g)検出群)]。